

1. 社会・治安情勢

連邦区(DF)は、一昨年の国勢調査の結果、サンパウロ、リオデジャネイロに続き全国で3位の人口を有する都市となりました。

市民生活がいわゆる「コロナ禍以前」の状態に戻ってきて、各種イベントがコロナ対策を講じることなく開催され、人の移動や行動範囲も通常通りになったことや、インフレも依然としてあり、生活が苦しくなっていることから犯罪発生状況も増加傾向にあります。

日本と比べてキャッシュレス化が進んでおり、人々が現金を持ち歩かない生活となっていますが、その分、「スマートフォン」が特に狙われています。

特に、衛星都市及びブラジリア中心部(プラノピート地区)周辺、ブラジリア大学付近、パラノア湖周辺施設では、路上強盗のほか、車上ねらい、自動車盗、薬物取引等の犯罪が日常的に発生しています。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

連邦区公安局による令和6年1月～3月の犯罪統計によれば、発生件数が多い犯罪について令和5年の同時期と比較すると、路上強盗、乗り物強盗、乗り物盗などは約18パーセントの減少(5,613件→4,649件)が見られたものの、殺人や殺人未遂の数値は昨年と比べてほぼ横ばい(4パーセント減)(227件→218件)です。

減少したとはいえ、路上強盗及び路上窃盗だけをとってみても、2022年1年間の日本全国における発生件数が941件なのに対し、ブラジリアだけでわずか3か月間の発生件数が3,192件と、その多さは一目瞭然です。

日本人や日系人が多く居住、利用するASA SUL 地区においては、携帯電話を目的とする盗難事件が多発していることから、食事や買い物中の携帯電話の所在には十分注意すると共に、路上における携帯電話の使用(いわゆる「歩きスマホ」)は、緊急事態以外では避けてください。

この3か月の間に邦人被害の車上ねらいも確認されました。自家用車等を駐車する際は昼間であっても貴重品等を車内に置いたままにせずなるべく人目のつく場所に駐車するようにしましょう

強盗犯罪の特徴として、殆どのケースでけん銃やナイフ等の凶器が使用されていますので、抵抗すると生命に危険が及びます。まずは「生命の安全を第一」に考えて行動してください。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件の発生は認知していません。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は認知していません。

- 5 日本企業の安全に関わる諸問題
現在、特段の情報はありません。